

投稿規程

1.本誌の目的

本学術誌の目的は、茨城県のリハビリテーションケアに関わる多くの方々が、関連領域の枠を超え相互に情報発信と研鑽を行える場を提供することであり、具体的な目的は以下に示す。

- ①日々の診療や地域包括ケア活動の拠り所となる情報を提供する。
- ② チーム医療や職種間連携の啓発に資する。
- ③リハビリテーションケアに従事する者の教育・発展に寄与する。
- ④論文投稿の過程を通じ、自ら研究能力を向上する機会を提供する。

2.記事の種類

記事の種類は「原著論文(研究)」、「症例研究」、「症例報告」、「総説論文」、「短報」、「その他(学会記事・紹介・会員の声)」とする。

2.投稿資格

本誌への投稿は、茨城県総合リハビリテーションケア学会個人会員とする。共著者においても、論文掲載時には会員でなければならない。ただし、編集委員会から依頼された原稿についてはこの限りではない。また、投稿原稿は国内外の他紙に掲載、または投稿中の原稿でないこと。

3.採否決定機関

掲載の採否については編集委員会に置いて決定する。

4.投稿原稿の倫理

実験の倫理性は「生物医学雑誌投稿に関する統一規程」に基づき、研究対象の人権保護、および動物愛護について十分配慮されねばならない。また、可能な限り事前に倫理委員会などの承認を得、その旨を本文に明記する。

5.利益相反 (conflict of interest :COI)

研究助成費用や企業からの援助など、利益相反の可能性がある研究受の場合は、その内容を自己申告記載する。筆頭及び共同著者が、COI 関係にある組織・団体との間で、役員・顧問職の待遇や株保有、特許権使用料、講演料、原稿料、研究費、奨学寄附金(奨励寄付金)、寄付 講座所属、その他報酬を受ける又は関係にある場合など。

6.著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、茨城県総合リハビリテーションケア学会に帰属する。著作権譲渡の確認の為、投稿時は別紙の投稿誓約書に自筆による署名をして提出すること。

7.掲載料

投稿料は規程範囲までは無料とするが、それを超えるものに関しては実費負担とする。

8.別刷

別刷の費用は著者負担とする。依頼原稿については 30 部まで無料とする。

9.校正

校正は執筆者の責任において校正し、再校までとする。

10.原稿送付方法および連絡先

オリジナル原稿及び図表の電子ファイル、投稿誓約書及び転載許諾書(転載がある場合)いずれも自筆記入したもののPDFをメールにて送付してください。

〈原稿送付先〉〒310-0034 茨城県水戸市緑町 3-5-35
一般社団法人茨城県リハビリテーション専門職協会内
茨城県総合リハビリテーションケア学会事務局
TEL : 029-306-7765 EMAIL : ibaraki.rehacare@gmail.com

執筆要領

1.論文の構成

論文は和文とする。また原稿は全て横書きとし、MS-Wordを使用する場合はA4用紙とする（原則として1行40時、1頁30行）。

2.原稿の構成

学会記事を除き、論文を投稿する場合は以下の構成に従って原稿を作成すること。

1) 表紙

① 論文の表題(タイトル) :

内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用いる用語は略語・略称を避ける。

② 投稿原稿の種類 :

原著論文(研究)、症例研究、症例報告、総説論文、短報、その他(学会記事・紹介・会員の声)など

③ 著者 :

筆頭著者及び共同著者 : 著者氏名、職種及び称号(degree)、所属機関

称号例 : 医師(MD)、博士(Ph.D)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)、臨床検査技師(MT)

所属機関名 : 法人名等は省略可能ですが、所属機関名及び部署名は略さず正確に記載

筆頭著者 : 連絡先(住所、電話、Email アドレス)

④ 本文の文字数及び図表の個数を明記

2) 要旨・キーワード

① 要旨 : 論文の要旨を緒言・目的・方法・結果・結論に分け簡潔明瞭に記載(和文 400 字以内)

② キーワード : 論文内容を推察し得るワードを3語

シソーラス語(統制語辞典)を参考に、具体的過ぎず国際的に広く適用されている語句が望ましい

3) 本文

原則として以下の項目に沿って本文を構成すること。ただし、原著論文(研究)以外の記事の種類については、著者の判断で項目名を変更してもよい。

① 序論 : 現在までの研究の流れと残されている疑問(課題)、本研究の目的と仮説

② 方法 : 対象者の属性及び特性、研究(調査)方法並びに分析方法。倫理的配慮及び利益相反も記載すること。

③ 結果 : 結果の解釈等を含めず、目的に答え得る客観的所見を、図・表等と併記して簡潔的に記載

④ 考察 : 本研究の長所や短所、示唆されること、逆に未解明な点 加えて、本研究の限界と今後の課題や研究の方向性

⑤ 結論 : 本論文の論点を1文で総括

⑥ 参考文献 : 本文中に引用した質の高い関連する論文を順に列挙

4) 図表

別紙に1枚ずつ貼り付け、それぞれ掲載順に一連番号と表題、挿入場所を明示。ただし、図・表の番号は混同して用いず、論文の先頭から適用した順に、図と表別々に番号を割り当てること。引用・転載の図表はそれぞれ出典を明記。また、表は原則として縦罫線を使用せず、横罫線も表の上下と項目

部分の罫線以外は可能な限り省く。

5) Figure legend

論文中に用いる各図表の一連番号とタイトル、概略、数値や記号の説明等を付記。

6) 引用文献

文献は引用順に、参考文献は著者名で AB 順に配列する。著者が複数の時は筆頭者のみ示し、共者は「・他」または「et al.」と表記する。原著論文の場合、著者名、表題、雑誌名、巻(号)、ページ(最初-最終)、発表西暦年号の順で表記する。単行本の場合、著者名、書名、ページ、編集者又は監修者名、発行所名、発行地、発行年の順で表記する。また、雑誌の略称は欧文雑誌では Index Medicus に従い、和文では医学中央雑誌の「医学中央雑誌・収録雑誌 略名表」や CiNii、国立国会図書館雑誌記事索引で用いられている表記を用いること。

表記例

- 1) 関 和則：機能回復神経学の現状ーリハビリテーション医学分野. リハ医学 31 : 17-22, 1944
- 2) Stineman MG, et al: Discharge motor FIM-function related groups. Arch Phys Med Rehabil 78: 980-985, 1997
- 3) 森谷敏夫：脊髄反射の発達と運動機能. 久保田競編, 発達のメカニズム, p79-88, ミネルヴァ書房, 1994
- 4) Hultman E, et al: Biochemical causes of fatigue, Jones NL(ed): Human Muscle Power. 1sted, p215-252, Human Kinetics, Illinois, 1986

3.原稿の規程分量

原著論文(研究)、症例研究、総説論文は、図表含め 400 字詰原稿用紙 30 枚以内。症例報告、短報は 400 字詰め原稿用紙 15 枚以内、その他(学会記事、紹介、会員の声)は 400 字詰原稿用紙 3~5 枚程度とする。図表等はいずれも 1 点につき 400 字詰原稿用紙 1 枚として換算すること

4.数量の単位

数字は算用数字、度量衡単位は CGS 単位 (cm, g, S) に限る。

5.その他

- 1) 本文には最下部にページ番号を記載する。
- 2) 論文中に用いる句読点は統一し、「、」や「。」よりも「,」や「.」を用いる方が望ましい
- 3) 各領域に特有の用語は、略語を用いず正式用語で表現する。ただし、初めて表現された正式用語の後に括弧内で略語を示した場合は、以降その略語を用いることができる。

【例】…日常生活活動動作(以下 ADL)…

- 4) 用語を略して示す場合は、論文中の最初に表現する箇所において正式用語を示し、その後に括弧内で略を示す。ただし、正式な英語表記のある略語の場合、略語と同時にフルスペリングも示すこと。

【例】…日常生活活動動作(activities of daily living: ADL)…

投稿誓約書

茨城県総合リハビリテーションケア学会 御中

論文名

上記論文は、他紙にすでに発表された論文あるいは投稿中、投稿予定でないことを誓約いたします。
また、掲載された全ての著作権は茨城県総合リハビリテーションケア学会に帰属し、他紙への無断掲載はいたしません。

筆頭著者署名

署名日

(年 月 日)

共著者署名

(年 月 日)

(年 月 日)

(年 月 日)

(年 月 日)

(年 月 日)

※本誓約書を原稿に添付してください。原本は筆頭著者が保管してください。

※共著者欄が不足の場合、この用紙をコピーして使用してください。